

まなぶし

第93号

『いつかみえてくるもの』

中央幼児センター 保護者 大田 聖子



私には小5の長男を筆頭に4人の息子がいます。下3人は年子ということもあり、小さな3人を育てていた間の記憶は…あまりありません。けれど、熱を出せば、何か変な病気なんじゃないか…と何人いても何回熱を出してもこの時ばかりは不安になります。そして普段はガミガミ怒っているくせに、病気の我が子を見ると、いつものうるささがこんなにも幸せなことなのだ気づかされます。寝顔を見ては、「今日はあんなに怒ってごめんね」と反省したりの繰り返しで、気づけば子供達は私の抱っこから離れ、学校、幼稚園でそれぞれの世界をもっています。

私はまだまだ子育ての真っ最中なので、振り返るには早すぎますが、私はいつもまわりの沢山の人達に助けられ子育てしてきたと痛感しています。まわりの人達の優しさに触れることができたのも子供達が生まれてきてくれたおかげ。子供達のおかげで沢山の大切な人達と繋がりができました。何度も何度も見えない壁にぶつ



中央幼児センター運動会の様子

かり、自信を無くしたことも泣いたこともあります。けれど、やっぱり子育ては楽しい!!

私の子育てはまだまだ先が長いですが、子育て真っ最中の大変な時には気づかないことや見えないことが沢山あります。でもきつと、過ぎてみるとあつという間だったなと振り返る日がくるのかなと思ったりもします。それなら、私に与えられたせつかくの子育てという貴重な経験と時間を、ちょっとずつでも余裕をもって、欲を言えば目一杯楽しく、幸せに味わっていただけらなと。今もワイワイ騒ぐ子供達の笑顔を見ながら思っています。

『担任を持つことの喜びを感じて』

東陽小学校 教諭 芳川 卓巳



この4月に俱知安町立東小学校から東陽小学校に転動してきて、約3カ月が過ぎました。前任校には7年勤務しましたが、最後の2年間は担任を離れていました。東陽小学校では、5年生の担任ということで、久しぶりに担任を持つことができました。初めての学校でどんな子どもたちと巡り会えるかという期待と不安がありました。が、東陽小学校の子どもたちは元気で明るく素直な子どもたちばかりで、すぐに打ち解けることができました。前任校では7年間いたということもあり、学校の動きについてはほとんどわかっていましたが、久しぶりに転動してみるといろいろと動きが違ってくるがあり、戸惑うこともありました。

そんな時、学級の子どもたちいろいろな面で教えられたり、助けられたりする場面が多くありました。子どもたちに「:はいつもどうしていたの?」と聞くと子どもたち全員が「こうやっていた」「ああしていた」というように真剣に考えてくれます。本当に素晴らしい子どもたちと巡り会えたと感じました。

当たり前ですが、子どもたちに助けられてばかりではいけません。子どもたちには、何と言っても授業で返していかねければと思っております。子ども

もたちにとって「わかる」「楽しい」授業をできる限り実践していきたいと考えております。今担当をしている5年生は個性豊かです。一人ひとりの個性に合わせて、よい面をどんどん伸ばしていきながら、苦手な面についても少しずつ自信が持てるように支援していきたいと思えます。

この原稿を書いている時は、ちょうど宿泊学習に向けての取り組みの真っ最中です。来年の修学旅行を見据えて、子どもたちが各係に分かれて大変意欲的に準備を行っております。失敗を恐れず、失敗したら来年への課題として残していけばいいのです。子どもたちと共に楽しい思い出をまた一つ作ってきたいと楽しみにしております。

担当を持つ喜びを感じながら、これからも子どもたちに教えられたり、教えたりと共に学んでいきたいと考えております。



東陽小学校運動会の様子

『仕事と子育て』

西陵小学校 教諭 安藤 千絵



西陵小学校運動会の様子

西陵小学校に赴任して3年になります。赴任して半年で1年半の産休・育休を取らせていただき、今年の4月より復帰しました。ですから今の心境は、西陵小学校に今年赴任してきたつもりで、新たな気持ちで通っているところです。

今年の受け持ちの3年生は、2名という少ない人数ですが、とても元気がよくて明るいクラスです。なんとといっても、「や名みんなが仲良しであること」これがすばらしいなと思っています。3年生くらいになると、男女間で遊びの違いなどが出て来るころかなと思うのですが、休み時間はみんなで鬼ごっこなどをしたりして、とても楽しんでいる様子です。

今の3年生の一番の楽しみは、学校の畑にじゃがいも・にんじん・玉ねぎ



などを植え、収穫したらカレーライスを作ることです。先日は、雑草だらけになった畑の草取りをしました。どの子も真剣で、汗びっしょりになりながら一生懸命草取りをしてくれました。自分の畑が終わったら1年生の分まで……。そんな子どもたちを見てみると、「絶対おいしいカレーライスを作らせなきゃ」と思いました。こんなに明るく、まじめな3年生たちと過ごす日々を、私自身もとても楽しんでいきます。

私は、家に帰ると2児の母です。母親になって4年半、まだまだ新米母さんです。よく、「子育てと仕事の両立は大変だね。」と言われますが、子どもが生まれる前と後では、今の方が充実していると感じています。子どもを通して出会うことのなかった人たちと知りあいになったり、保護者の皆さんと時には子育てについて話しをしたりと、とても楽しく勉強になることばかりです。

仕事と子育ての両立は確かに大変ですが、それを支えてくれている多くの方々がいることを忘れず、がんばっていききたいなと思っています。

『共和町に来て思うこと』

共和中学校 教諭 川合 園子

共和中学校に勤務し始め、すでに約3カ月が経ちました。共和中学校の生徒は本当に素直な生徒が多いという印象があります。

以前読んだものの中に「りんごの木は放りっぱなしではいけない。確かに野生種や自生しているものは自然な姿で強いのですが、人が手を入れなければ豊かな実は結ばないといえます。手を入れることによって初めて、その木の本来のおいしさが引き出されるそうです。また、この手入れする手段の1つに剪定があります。様々な角度から検討しその木が成長するのに邪魔なところは切り落とします。風通しが良くなり、光が奥まで射し込むようになると、その木らしい特徴が引き出され、時が来れば豊かな実を結ぶようになります。専門家である農夫が、5年先10年先を見通して枝を切る剪定も大切な作業の一つです。」これはりんごの話ですが、どの作物にも通じていると思います。これを読み、共和町の広大な土地を見ながら私は「子供を育てる」ことにとても似ていると感じました。手をかけなければ立派には育たない。しかし、手をかけ過ぎると弱い作物になってしまう。手をかけ、時にはそれぞれが持っている力を信じて見守りながら子供たちを育てる



こと、まだまだ未熟者の自分がこのような事を言うのはおこがましいかもしれませんが、このバランスをとりながら保護者の方々と協力し合い、生徒達の健やかな成長の一端に携わっていただけらな共和町の自然を見ながら思うのです。

最後に私が大切にしていることが一つあります。それは「縁」です。自分には多くの人に支えられていると思っています。もちろんこの町に来たのも生徒達と出会ったのも何かの縁。その縁を大切にしながら、めぐる季節を楽しみたいと思います。



共和中学校体育大会の様子